

## ウイルスとビールス

「こないだの休みの日はどうだった?」  
「まあ、やたらウロウロ出歩くわけにもいかないからさ、動画で『バビル2世』見てたよ」

「思いっきり昭和だね」

「そしたらさ、『宇宙ビールス』っていうのが出てきたんだよな。ビールスって知ってる? ビールの複数形じゃないぜ」

「それくらい知ってるよー。ウイルスのことでしょ」

「でさ、もう気になって気になって、virusは英語では[ヴァイラス]じゃん? なんだよビールスって、で、なんだよウイルスって」  
やば、また始まった。

「はい、調べた結果をまとめてみました。画面共有するわ。まず、昔の医学用語はドイツ語からのものが多かったのよ。カルテ(Karte)とか、アレルギー(Allergie)とか。これさ、もし英語から入ってたら、カード(card)とかアラジー(allergy)だったはずだよな」

「そうねー」

もうすこし話に付き合うか。わたしたちのソーシャルなディスタンス。

「で、ドイツ語のVirusの発音が[ヴィールス]なんだけども、これを取り入れたのが、ビールス。外国語の[ヴィ]の音は外

来語として日本語に入るとふつう[ビ]って発音するから、ビールスになったわけ。あ、カメラオフしないように。こっからが重要」  
缶チューハイ取ってこよっと。

「でな、一方のウイルスは、ラテン語vīrusから。[ウィールス]みたいな音らしいけども、英語の[ウイスキー]が「ウイスキー」になったりすんのと同じだな」

「なんで今はビールスじゃなくてウイルスを使ってんの?」

見つめるモニター越し。

「戦後しばらくは、専門家はウイルスが多くて、マスコミとか教科書はビールスが多いっていう状況が続いてたんだけどね、専門家の言い方にそろえようってことで、NHKでも放送用語委員会っていうところで1976年に[①ウイルス ②ビールス]って改訂してるらしくてさ、……」

「リモートだとさ、画面は共有できても、おつまみは共有できないよね」

さんざんな一年だったね。でも、きっともうすぐだよ。そのときはさ、口笛とか吹いちゃおうよ。マスク外して。ほら、またくだらない話しておなか抱えて笑ったり、どうでもいい口げんかしたりしてさ。マイダーリン。

作: 塩田雄大(しおだたけひろ)